

令和3年度
重点支援地域における事例集

本事例集の概要

日本遺産を活かして地域づくりを行っている認定地域の事例の分析・取りまとめを行い、各協議会及び候補地域において、今後の日本遺産を活かした地域づくりの参考として役立つことに期待して刊行する。

事例を取り上げる地域は、「日本遺産審査・評価委員会」における総括評価・継続審査を経て、他の地域のモデルとなる「重点支援地域」に選定された平成27年度認定の4地域を対象として、各地域でそれぞれ2つの事例を取り上げる。

Contents

- | | |
|--|-------------|
| ■ストーリー名：#003 加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡 – 人、技、心 – | P.03 |
| 事例① ：観光来訪者の文化体験価値を極大化する日本遺産ストーリー運動のオーダーメイドツアー提供 | P.04 |
| 事例② ：日本遺産ストーリーと親和性の高い地域イベントとコラボレーションした、効率的・面的な普及啓発の実施 | P.05 |
| ■ストーリー名：#005 海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群 – 御食国（みけつくに）若狭と鯖街道 – | P.06 |
| 事例① ：日本遺産ストーリーに則った、地域広範での地域振興（産業再生・産品流通・観光活用）とブランディング化の在り方 | P.07 |
| 事例② ：収益性の観点を有す主体・人材の推進体制参画による自走化実現と、日本遺産ストーリーを中核コンセプトに据えた地域一帯での観光推進 | P.08 |
| ■ストーリー名：#011 日本国創成のとき – 飛鳥を翔（かけ）た女性たち – | P.09 |
| 事例① ：多面的な教育効果に着目した日本遺産ストーリーの教育活用と派生的な普及啓発効果の追求 | P.10 |
| 事例② ：日本遺産事業メカニズム（構成文化財の順次追加による価値向上）と相互理解に基づく外部連携推進 | P.11 |
| ■ストーリー名：#017 国境の島「杵岐・対馬・五島」 – 古代からの架け橋 – | P.12 |
| 事例① ：日本遺産ストーリーを活用した、観光コンテンツ・観光商材の造成による認知促進と経済効果の創出 | P.13 |
| 事例② ：観光来訪者への日本遺産ストーリー認知に向けた地域一帯での仕組み整備と、広い視野・深い理解を有すガイド育成の追及 | P.14 |

#003・平成27年度認定

加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡

一人、技、心

申請者：富山県（高岡市）

ストーリー概要

高岡は商工業で発展し、町民によって文化が興り受け継がれてきた都市である。高岡城が廃城となり、繁栄が危ぶまれたところで加賀藩は商工本位の町への転換政策を実施し、浮足立つ町民に活を入れた。鋳物や漆工などの独自生産力を高める一方、穀倉地帯を控え、米などの物資を運ぶ良港を持ち、米や綿、肥料などの取引拠点として高岡は「加賀藩の台所」と呼ばれる程の隆盛を極める。町民は、固有の祭礼など、地域にその富を還元し、町民自身が担う文化を形成した。純然たる町民の町として発展し続け、現在でも町割り、街道筋、町並み、生業や伝統行事などに、高岡町民の歩みが色濃く残されている。

将来像（ビジョン）

前田家関連の文化資産は、高岡の歴史資源の大宗をなすものである。町民により文化が形成され、発展し続けてきた姿は、町割り・街道筋や町並み・伝統行事、さらにはものづくりの技などに今でも色濃く残されている。日本遺産を通じて、市民が赤岡の歴史・文化を改めて学ぶことで、地域に誇りと愛着を持ち、その魅力を自ら発信する市民の増加、歴史的な町並みや建造物を活用した観光産業の活性化、さらにはものづくりを通じた交流人口の拡大などによる地域振興を図る。高岡市の強みである「町民文化」＝文化力、「ものづくり産業」＝創造力、「高い地域力」＝市民力を活かし、市民と地域、行政が連携し、さらなる地域の活性化と、歴史都市高岡のブランド化を目指していく。

構成文化財概要（来訪や消費のコアとなる中心的一部抜粋）

■高岡御車山祭／重要無形民俗文化財

高岡の金工、漆工、染織等の優れた工芸技術の装飾を施された御所車に鉾を立てた高岡の伝統を再認識できるお祭り。



■瑞龍寺／国宝・重要文化財（建造物）

高岡開町の祖前田利長の菩提を弔うために建てられた曹洞宗寺院。高岡の町民に長く利長の遺徳をしのばせるとともに、町の繁栄を願い建立された。



■金屋町重要伝統的建造物群保存地区

高岡開町に際し前田利長が鋳物師を招き、鋳物づくりを行わせたことに始まる鋳物師町。装飾品や美術工芸品の一大生産地として発展。



観光来訪者の文化体験価値を極大化する日本遺産ストーリー連動のオーダーメイドツアー提供

事例サマリー

- 日本遺産ストーリーに基づき、興味関心のある構成文化財を特別な体験と共に、選択・周遊するオーダーメイドツアーを提供している。
- 日本遺産ストーリーを理解し、構成文化財に造詣が深い外国語対応可能なガイドがアサインされ、体験を提供している。
- 上記により、時間制約がある旅において、日本遺産ストーリーの体験価値の極大化と高付加価値化を実現している。

取り組みの内容

<日本遺産ストーリーを活用したオーダーメイドツアーの提供>

- 地域連携DMO(一社)富山県西部観光社の収益事業を担う法人「株式会社 水と匠」(DMC)が、地域の文化的価値の体感をテーマにオーダーメイドツアーを造成。
- 文化財に関連する観光コンテンツを、観光客の要望に合わせたオーダーメイドでツアーを構築して、ガイド帯同によるツアーが提供されている。日本遺産ストーリーを活用して、観光客に地域の文化的価値の理解醸成を図っている。
- 海外の富裕旅行者をメインターゲットとして、コロナ前は月平均で2組程度の利用があり、1人10万円を超える参加費が設定されている。
- また、国内においては、クリエイターや企業の研修旅行としても活用されている。

取り組みの経緯・着眼点

<日本遺産ストーリーに基づくオーダーメイドツアーの造成>

- 当初、富山県西部の“観光地”としての認知状況の調査・分析を通じて、メジャーな観光地として大衆に訴えるのではなく、地域の文化的資源に感銘を受ける人々に訴求することが地域の観光に適していると検討された。
- その訴求手段として、興味・関心に合わせたコンテンツ提供が柔軟にできる仕組み、かつ地域の文化的資源への深い理解を促すためのガイドの提供が必要だと考え、高付加価値のオーダーメイドツアーを造成するに至った。



鋳物発祥の地・金屋町の散策



禅寺・国泰寺で坐禅と禅書道体験

当該地域によるPRポイント

- 日本遺産事業を通じた観光事業化の取組においては、地域の様々な関係者の協力を通じて、文化的価値の高い地域資源を観光客へと率直に伝える活動として、観光サービスが実現されていくことが望ましいのではないか。

取り組みの工夫点

<地域関係者からの協力の獲得>

- オーダーメイドツアー造成にあたり、地域の観光コンテンツを整備するために、文化資源に関連する地域の関係者から賛同・協力を獲得する必要があった。
- 「水と匠」の代表取締役 林口氏は、これまで構築してきた地域関係者との関係性を活用しながら、単なる収益事業ではなく、地域の文化的価値の訴求に重きを置いた取組の意義を地域関係者に伝えることで、協力を取り付けた。

<ガイド人材の確保・育成>

- オーダーメイドツアーのガイドとして、ボランティアではなく、全国通訳案内士の資格を有する人材を確保する必要があり、富山県と石川県の通訳案内士協会に声をかけ、ガイド人材の確保を行った。
- ガイドの育成事業を展開する「株式会社ノットワールド」をガイド講師として招き、計3回のガイド研修を実施して、オーダーメイドツアーのガイド人材の育成を行った。

<文化資源を活用した観光コンテンツの段階的な拡充>

- 地域の文化資源を活用した観光コンテンツの整備においては、文化庁の令和3年度「上質な観光サービスを求める旅行者の訪日等の促進に向けた文化資源の高付加価値化促進事業」の財源等も活用しながら、段階的な観光コンテンツの拡充を図っている。

<誘客ターゲットの呼び込み>

- 誘客ターゲットに適う海外の旅行代理店と組むことで、欧米をはじめとした海外の富裕旅行者のうち、ターゲットである文化的資源に興味・関心の高い層の呼び込みに成功している。

日本遺産ストーリーと親和性の高い地域イベントとコラボレーションした、効率的・面的な普及啓発の実施

事例サマリー

- 地域のクラフトイベント「市場街」では、日本遺産ストーリーと関連する地場の工芸品等がテーマであるため、日本遺産ストーリーの発信をイベント内に溶け込ませている。
- 市内小学生向けのスタンプラリーは、市内の歴史的な建造物や街並みを巡るイベントで、日本遺産ストーリーも内容に含め、構成文化財の周遊による学びを促している。
- 上記の多数の市民・児童が参加する地域の既存イベントとコラボレーションして、日本遺産ストーリーの発信を行うことで、効率的・面的な普及啓発を実現する。

取り組みの内容

<クラフトイベント「市場街」を活用した普及啓発の実施>

- クラフトのまち高岡を代表する一大イベント「市場街」は、全国のものづくりに興味・関心ある参加者が多く、多数の市民も参加する。
- クラフトイベント内にて、日本遺産のパンフレット設置や日本遺産の紹介動画の作成・配信を行うと共に、平成30年には日本遺産サミットを合同開催することでイベント参加者へ日本遺産ストーリーの普及啓発が図られている。

<市内小学生向けのスタンプラリーを活用した普及啓発の実施>

- 市内小学1年生～4年生が対象で、地域の歴史的な資源を巡りながらスタンプを集める「高岡再発見プログラム」は、毎年多くの児童が参加している。
- スタンプラリーは、回遊場所を自ら選べる設定で、実際に回る地点を選択する中で、自ずと日本遺産の構成文化財が把握・学べる仕組みとなっている。

取り組みの経緯・着眼点

<クラフトイベント「市場街」と日本遺産ストーリーの親和性>

- 日本遺産ストーリーの根幹である、ものづくりによる地域発展の歴史が、当該クラフトイベントのテーマ性・内容と親和性が高く、地域内外から多くの参加が確実に見込まれる地域の一大イベントであるため、日本遺産ストーリーの普及啓発の場として効果的かつ効率的な機会と捉えた。

<スタンプラリーと日本遺産ストーリーの親和性>

- スタンプラリーのテーマ・目的である「高岡の歴史と文化への誇りの醸成」は、日本遺産ストーリーとの親和性が高い。児童に対する校外学習での普及啓発として活用しやすく、遊び感覚で参加できるスタンプラリーは、児童に楽しみながら日本遺産を巡ってもらい、主体的に学んでもらえる機会と捉えた。

当該地域によるPRポイント

- 既存のクラフトイベントで行うにあたって、各ステークホルダーとの連携に取り組んだ。開催10周年を迎え、地域内外に多くのクラフトファン、高岡ファンを持ち、情報発信の土台がすでに確立しているイベントと連携することで、日本遺産の認知度向上に効果的であった。
- 地域の大学、職人、教育委員会など、幅広い分野の組織と連携したこと。特に、高岡でデザインや工芸、まちづくりを学ぶ学生や、観光客の受け入れに重要な役割を担う民間企業、地域の方等との連携により、高岡市の日本遺産を活用した観光産業の発展にかかる人材育成につながったと考える。

取り組みの工夫点

<「市場街」の実行委員会との密な連携・協議>

- 高岡市は、「市場街」の企画・運営を行う高岡クラフト市場街実行委員会の一員として関わっており、毎年イベント開催にかかる協議を行っている。
- そのため、本イベントで日本遺産ストーリー要素を取り込み、連携して魅力発信していくことについて合意形成を図ることができた。

<担当課を超えた連携の推進・成果>

- 日本遺産認定後に、日本遺産の担当課だけではなく、歴史・文化・観光に関係する課とも連携して協議会を組織したことで、スタンプラリーでの普及啓発をはじめとした複数の事業において、日本遺産を活用した取組が展開がなされた。



クラフトイベント「市場街」



「高岡再発見」プログラム

#005・平成27年度認定

海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群 －御食国（みけつくに）若狭と鯖街道－

申請者：福井県（小浜市、若狭町）

ストーリー概要

若狭は、古代から「御食国」として塩や海産物など豊富な食材を都に運び、都の食文化を支えてきた地である。また、大陸からつながる海の道と都へとつながる陸の道が結節する最大の拠点となった地であり、古代から続く往来の歴史の中で、街道沿いには港、城下町、宿場町が栄え、また往来によりもたらされた祭礼、芸能、仏教文化が街道沿いから農漁村にまで広く伝播し、独自の発展を遂げた。近年「鯖街道」と呼ばれるこの街道群沿いには、往時の賑わいを伝える町並みとともに、豊かな自然や、受け継がれてきた食や祭礼など様々な文化が今も息づいている。

将来像（ビジョン）

近年「鯖街道」と呼ばれるこの街道群が、単に鯖を運んだだけでなく、若狭から京都へ、京都から若狭へ様々な文化をもたらした交流の道であることが注目されている。特に、和食が大成した京都の食文化を形成してきた「御食国」の歴史は今も続いており、食文化と祈りの場である社寺、祈りの民俗行事、食材を育む自然を一体的に発信活用することにより、京都を中心とした京阪神地区の食の都、そして京都に訪れる多くの観光客が食の根幹を求めて訪れるストーリーや基盤を整え、交流人口の拡大と地域全体の活性化を図っていく。いにしえには、「京は遠ても十八里」と呼ばれた文化交流をもとに、北陸新幹線全線開業を目論み「京は遠ても十八分」というスタンスを打ち出し、京都郊外観光地として京都との一体化を図っていく。

構成文化財概要（来訪や消費のコアとなる中心的一部抜粋）

■小浜西組／国重伝建

南蛮貿易と日本海交易で繁栄した港町の賑わいを伝え、近世前期の古い町割り等が残る地区。



■旧古河屋別邸・庭園／建造物（名勝）

江戸時代の回船問屋「古河屋」全盛の時代、文化12年（1815）に建築された建物並びに庭園。



■放生祭／無形民俗文化財

毎年9月第3土日に旧小浜地区24区のうち12区が伝統の神事芸能を八幡神社に演舞奉納する祭。



日本遺産ストーリーに則った、 地域広範での地域振興（産業再生・ 産品流通・観光活用）とブランディング化の在り方

事例サマリー

- 日本遺産ストーリーの根幹にある海産物など豊富な食材を京都に運んで栄えてきた地域産業・産品流通の歴史・文化を、主産品であった鯖に焦点を当てて、現代の養殖技術によって産業の再生と産品流通の再現を行った。
- また、養殖された鯖は「小浜よっぱらいサバ」としてブランディング化され、鯖をフックとした日本遺産ストーリーの認知促進を図るための観光受入環境の整備を行った。

取り組みの内容

<日本遺産ストーリーそのものの現代における再現>

- 日本遺産ストーリーの根幹にある地域産業・産品流通の歴史・文化を、主産品であった鯖に焦点を当てて再生し、鮮度高い流通を実現、鯖の流通の通り道を鯖街道として観光資源化し、日本遺産ストーリーを地域ぐるみでそのままに再現した。

<日本遺産ストーリーに則った、地域産業の再生・産品流通の再現>

- 日本遺産認定を契機に、地域一帯での鯖養殖事業を開始して、一般的に浸透していない刺身で提供できる「小浜よっぱらいサバ」を開発した。
- 養殖で取れた鯖を京都等へ販路を拡大させることで、日本遺産ストーリーに則った産業の再生・産品流通の再現がなされている。

<鯖養殖における観光活用>

- 主に市直営の飲食店で、養殖鯖を用いたメニュー開発や、メニュー表における日本遺産ストーリーの掲載等の発信が行われている。
- 養殖鯖のイサやり体験等や食体験ツアーなどの観光コンテンツが整備され、コンテンツ内での日本遺産ストーリーの発信による認知拡大を図っている。

取り組みの経緯・着眼点

<日本遺産ストーリーに則った、地域産業の再生・産品流通の再現>

- 京都の食文化を支えてきた小浜の歴史・文化が、水産業における漁獲量の減少や後継者不足等によって衰退することに、地域全体で課題を感じていた。その中でも特に、主産品であった鯖の漁獲量減少は大きな課題であった。
- そのため、日本遺産認定を契機に、鯖を起点とした地域振興として、鯖養殖の研究開発が開始された。養殖鯖の供給量安定のため、地域内での流通に収めていた生産数を増やし、京都を始めとした全国へと販路を拡大させた。

<鯖養殖における観光活用>

- 観光来訪者や観光消費の増加を目指すと共に、日本遺産ストーリーの認知促進を図るために、養殖鯖を観光商材の1つとして活用するに至った。

当該地域によるPRポイント

- 小浜市は日本遺産事業を活用した地域振興を中長期的に推進していく上で、推進力のある職員を日本遺産事業の主担当に選抜し、認定から6年間で産業振興・観光促進等の関連セクションに戦略的に異動させたことで、日本遺産ストーリーに則った多様な事業推進を実現できたのではないかと。

取り組みの工夫点

<鯖養殖における地域の巻き込み>

- 小浜市は、日本遺産第1号認定を契機に、地域の住民・民間事業者に対して、往時の鯖で栄えた地域産業の再生を訴えかけていくことで、鯖養殖事業の実施に向けた民間からの協力の声が生まれた。

<財源の確保・民間による自走化>

- 小浜市は、内閣府の平成27年度「地方創生加速化交付金」を活用し、鯖養殖の研究開発・運営のみならず、鯖を活用した伝統食の復興や京都での養殖鯖のマーケティング等、地域振興に向けた多様な事業を推進した。
- 養殖事業を担う民間事業者「田烏水産株式会社」が設立され、令和元年にプロジェクト成果を引き継ぎ、現在は自立した民間主導の事業として鯖養殖事業は成長を遂げている。

<観光活用>

- 小浜市は、地域の飲食店等に対して、日本遺産ストーリーや「小浜よっぱらい鯖」についての解説テキストを配布することで、理解促進を図ると共に、観光客に対する日本遺産ストーリーの発信を地域の飲食店等に依頼している。



飲食店のメニュー表に記載される
日本遺産ストーリーの一部紹介

収益性の観点を有す主体・人材の推進体制参画による自走化実現と、日本遺産ストーリーを中核コンセプトに据えた地域一帯での観光推進

事例サマリー

- 小浜市における日本遺産事業の推進主体として、DMO「(株)まちづくり小浜」が参画しており、日本遺産ストーリーを活用した地域振興・観光事業化を自立的に推進している。
- DMO「(株)まちづくり小浜」は、推進事業の中で、観光来訪者の観光動線を踏まえた日本遺産ストーリーの発信に取り組み、認知拡大・周遊促進を図っている。

取り組みの内容

<収益性を確立した主体の推進体制参画による自走化実現>

- 協議会に参画し、小浜市の日本遺産事業の推進主体であるDMO「(株)まちづくり小浜」は、地域ファンドの民間資本活用により自主運営化しており、宿泊事業や食事処等の事業を運営している。
- 2015年度観光庁「観光地魅力創造事業」等の財源を活用しながら、毎年、情報発信やマーケティング、人材育成、インバウンド誘致等のプロジェクトを進める。また、農林水産省「農泊推進事業」を活用した宿整備やソフト事業の展開を図っている。

<観光来訪者の観光動線を踏まえた日本遺産ストーリーの発信>

- (株)まちづくり小浜が推進する「OBAMA MACHIYA STAY (町家を改装した宿泊事業)」や「濱の四季 (食事処)」、「道の駅若狭おばま」等においては、日本遺産ストーリーの伝達がなされている。
- 「OBAMA MACHIYA STAY」では、チェックインの際に日本遺産に関連するパンフレットを渡したり、館内案内の際に日本遺産等の説明を行う。
- 「道の駅若狭おばま」では、ポスター提示や養殖鯖の販売等を通して日本遺産ストーリーの発信を行う。

取り組みの経緯・着眼点

<日本遺産ストーリーを中核コンセプトに据えた地域一帯での観光推進>

- DMO「(株)まちづくり小浜」は、代表取締役に元農林水産省の御子柴北斗氏や副社長には元大手広告代理店の人材等の地域内外で豊富な経験を持ち、推進力のあるメンバーで組織されたこともあり、日本遺産ストーリーを中核的なコンセプトに据えた地域一帯での観光促進が精力的に取り組まれている。

当該地域によるPRポイント

- 農林水産省を退職して小浜市に戻った御子柴氏に白羽の矢を立て、DMO「(株)まちづくり小浜」の代表取締役就任の以前に、地域の民間企業での経営・観光等の経験を積んでもらうことで、日本遺産事業を活用したまちづくりの推進を担える人材として育成している。

取り組みの工夫点

<官民連携した小浜市の取組推進>

- 小浜市は、DMO「(株)まちづくり小浜」と定期的な協議の場を持ち、これまでの事業検証やこれからの事業展開を協議することで、官民で歩調を合わせながら、日本遺産事業に関わる事業を推進できている。

<DMO「(株)まちづくり小浜」における人材の確保・育成>

- 御子柴北斗氏は、DMO「(株)まちづくり小浜」の代表取締役に就任前に、福井県のキャピタルコンサルティングで経営・観光等の経験を積むことで、現在では収益性のある多様な事業推進を実現するまでに至っている。



OBAMA MACHIYA STAY
(7施設)



道の駅若狭おばま



宿泊施設での
パンフレット等の手交



道の駅のチェックインカウンター
での日本遺産のPR

日本国創成のとき

－飛鳥を翔（かけ）た女性たち－

申請者：奈良県（橿原市、高取町、明日香村）

ストーリー概要

日本が「国家」として歩み始めた飛鳥時代。この日本の黎明期を牽引したのは女性であった。この時代の天皇の半数は女帝であり、彼女たちの手によって、新たな都の造営、外交、大宝律令を始めとする法制度の整備が実現された。また、文化面では、女流歌人が感性豊かな和歌を高らかに詠い上げ、宗教面では、尼僧が仏教の教えを広め、発展させるなど、政治・文化・宗教の各方面で女性が我が国の新しい"かたち"を産み出し、成熟させていった。日本国創成の地である飛鳥は、日本史上、女性が最も力強く活躍した場所であり、その痕跡が色濃く残る地である。

将来像（ビジョン）

- ① 『歴史』『文化』『自然』が息づき 多様な交流が育める 魅力ある“飛鳥”
- ② 日本遺産を物語る飛鳥の歴史・文化・自然などの地域資源を活用し、来訪者が楽しんで回遊したり、ゆっくりと滞在しながら飛鳥の魅力を体感し、交流できる空間や仕掛けを創出し“人”“地域”“産業”が元気になる地域づくりを目指す。

構成文化財概要（来訪や消費のコアとなる中心的一部抜粋）

■ 藤原宮跡／国史史

天武天皇と女帝持統天皇合作の都城藤原京の中心をなす宮殿跡。



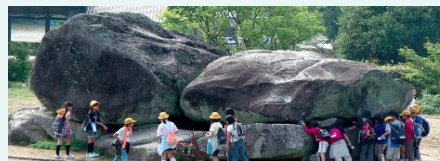
■ 天武・持統天皇陵（檜隈大内陵）／陵墓

天武天皇と持統天皇の合葬陵。国造りに励んだ夫婦が、同じ御陵に埋葬されている。



■ 石舞台古墳／国史跡

国営飛鳥歴史公園内石舞台周辺地区の中央に位置するわが国最大級の方墳。春には周辺で、夜桜のライトアップを実施。



多面的な教育効果に着目した 日本遺産ストーリーの教育活用と 派生的な普及啓発効果の追求

事例サマリー

- 歴史教育・郷土教育双方の教育効果を狙った臨場感ある教材として、日本遺産ストーリーを位置付けている
- 総合学習の授業で取り扱い、無機質になりがちな歴史学習を補完し、臨場感を持たせ、想像・共感の伴った理解を子供たちに促している
- 「観光ボランティアを担えるようになる」という明確な学習目標を設定し、教育を通じた子供たち自身への普及啓発と共に、子供たちが「伝える」ことによる派生的な普及啓発効果を追求している

取り組みの内容

<多面的な教育効果を狙った日本遺産ストーリーの教育活用>

- 明日香村では、幼稚園～中学校において郷土学習プログラムが整備されており、小学校6年生以降を対象に、日本遺産ストーリーが教材として活用されている。
- 日本遺産ストーリーを内包した副読本を用いて、総合学習の授業計70時間のうち、約10時間を日本遺産ストーリーを用いた授業に割いている。
- 郷土教育の教材としてだけでなく、社会科の歴史教育を補完し、他人に伝える力を育む教材として位置づけられており、現地に存する歴史のストーリーという日本遺産ストーリーの特徴を教材として最大限に活かしている。

取り組みの経緯・着眼点

<教育における日本遺産ストーリーの活用価値の導出>

- 郷土学習プログラムの整備・改定を継続的に進める中で、当地の日本遺産認定が決まり、郷土教育のための教材としての活用が進められた。
- プログラム改定議論の中で、歴史教育のスタート地点にあたる「飛鳥時代」に焦点を当てた当地日本遺産ストーリーの歴史背景、語り伝えによって価値が活きるストーリーという特性を踏まえ、社会科の歴史教育の有効な補助教材、他人に伝える力の育成のための有効な教材としての価値が見出された。
- 特に、社会科の歴史教育においては、無機質になりがちな歴史学習に臨場感を持たせ、想像・共感を伴った理解を促す教材としての価値が見出された。

当該地域によるPRポイント

- 日本遺産ストーリーは、無機質になりがちな歴史学習を補完し、臨場感を持たせ、想像・共感の伴った理解を子供たちに促すための有益な教材であると考えています。
- また、日本遺産ストーリーを子供たちが深く理解し、伝えられるようになることは、周囲に対する波及も含め効果的な普及啓発につながると考えています。

取り組みの工夫点

<先生方を交えた教育活用検討>

- 郷土学習プログラム改定の議論を現場の先生方を交えて定期的に行い、教育現場での日本遺産ストーリーの活用可能性を継続的に検討している。

<学習進度を踏まえたプログラム改善>

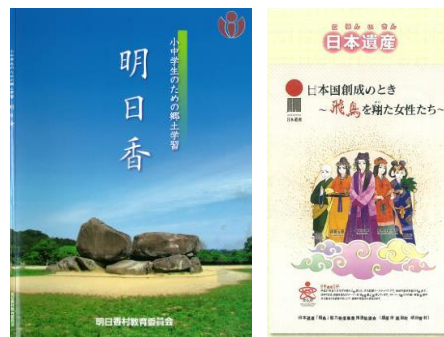
- 当初、小学校5年生から郷土教育の教材として活用していたが、子供たちの歴史教育の熟度を踏まえ、社会科で歴史学習が始まる小学6年生からの活用に変更し、より実効性ある活用を実現している。

<学習成果目標の設定による子供たちへの動機付け>

- 学習成果として、日本遺産ストーリーをはじめとする地域の歴史理解を踏まえて「観光ボランティアを担えるようになる」という目標を設定し、達成イメージを与えることで子供たちの動機付けも踏まえた教育効果を追求している。

<派生的な普及啓発効果の追求>

- 上記による教育を通じた子供たち自身への普及啓発と共に、子供たちが「伝える」ことによる派生的な普及啓発効果を追求している。



日本遺産ストーリーが
記載される副読本

日本遺産事業メカニズム（構成文化財の順次追加による価値向上）と相互理解に基づく外部連携推進

- 域内文化財を巡る「発掘」・「保存」・「活用」・「観光事業化」それぞれのステージに応じた外部連携を進め、構成文化財の順次追加も視野に入れた日本遺産の価値向上と事業化に応える連携体制を構築している。
- 連携に際しては、日本遺産ストーリーを含めた当地の歴史・文化背景に対する深い認識の醸成、相互の目的・目標をの共有化を時間をかけて行い、相互理解の熟度が高まった上で実行に移している。

取り組みの内容

<日本遺産を含めた「発掘」・「保存」・「活用」・「観光事業化」における連携>

- 日本遺産を含む文化財の発掘・保存において、関西大学と連携。従前から域内文化財の発掘調査で連携していたが、覚書締結を契機に、域内文化財のさらなる発掘調査や保存における連携を強化・拡充している。（人的支援）
- 同文化財の保存・活用において、長谷工コーポレーションと連携。同社からの企業版ふるさと納税の寄付（平成30年度から年間3千万～4千万円）を受けた日本遺産構成文化財「牽牛子塚古墳」の復元整備を行ったほか、同構成文化財「飛鳥寺跡」史跡内かつ登録有形文化財の古民家を再活用した宿泊施設の開業を予定している。
- 同文化財の活用においてDMM.comと連携。文化財の収益化を軸とした連携を予定している。（国・文化観光推進補助金を活用）
- 同観光事業化において、星野リゾートと連携。2018年からの人材交流を皮切りに2025年の宿泊施設開業を予定している。（企業立地のための諸条件の支援）

取り組みの経緯・着眼点

<外部連携への本格着手>

- 1980年の総合計画の立案過程において、地域の活性化に向けた検討がなされ、自治体単独ではない外部組織と連携した村おこしが目指すべき方向性として合意された。
- 上記を受け、大学や民間事業者との連携が積極的に模索・推進されてきた。

<日本遺産メカニズムを合わせて意識した連携体制構築>

- 日本遺産認定を機に、日本遺産事業のメカニズムである構成文化財の順次追加と、順次追加を通じた日本遺産の価値向上及び事業化を合わせて意識した連携体制構築を進めるに至った。

当該地域によるPRポイント

- 構成文化財を順次追加し、価値向上を図ることができる日本遺産事業のメカニズムを踏まえ、「発掘」・「保存」・「活用」・「観光事業化」の一連のプロセスを意識した外部連携が、事業推進の観点で有効と考えています。
- その際に、連携候補の方々との時間をかけたコミュニケーションと相互理解の醸成が、実のあるパートナーシップに向けて不可欠と考えています。

取り組みの工夫点

<連携実施に先立つ事前相互理解>

- 外部連携に際しては、拙速な連携によって、日本遺産ストーリーをはじめとする当地の歴史・文化や文化財との不調和を避け、双方にとって意義ある連携を実現すべく、事前の相互理解を十分に図った上での連携実施を進めている。

<トップ～担当者に至る組織階層をまたいだ相互コミュニケーション>

- 村長をはじめとするトップ間での合意形成に加え、担当者間での密なコミュニケーションを合わせて重視し、外部事業者の連携目的や目標、歴史・文化をはじめとした当地が大事にしたいこと・守りたいことを組織階層ごとに時間をかけて認識醸成している。
- 上記の結果、星野リゾートとは職員の人事交流を通じて、明日香村の歴史・文化を職員が体感し、地域の想いに沿った宿泊施設の造成がなされようとしている。



星野リゾートと「地域活性化包括連携協定」を締結



長谷工コーポレーションの宿泊施設「ブランシエラ ヴィラ 明日香」

国境の島「杵岐・対馬・五島」

－ 古代からの架け橋 －

申請者：長崎県（対馬市、杵岐市、五島市、新上五島町）

ストーリー概要

日本本土と大陸の間に位置することから、長崎県の島は、古代よりこれらを結ぶ海上交通の要衝であり、交易・交流の拠点であった。特に朝鮮との関わりは深く、杵岐は弥生時代、海上交易で王都を築き、対馬は中世以降、朝鮮との貿易と外交実務を独占し、中継貿易の拠点や迎賓地として栄えた。その後、中継地の役割は希薄になったが、古代住居跡や城跡、庭園等は当時の興隆を物語り、焼酎や麺類等の特産品、民俗行事等にも交流の痕跡が窺える。「国境の島」ならではの融和と衝突を繰り返しながらも、連綿と交流が続くこれらの島は、国と国、民と民の深い絆が感じられる稀有な地域である。

将来像（ビジョン）

- ① 国境の島ならではの融和と衝突を繰り返しながらも、長きに渡って、交流を続けてきた歴史的価値を国内外に発信することにより、多くの観光者が島を訪れ、観光や様々なイベントを通して歴史文化への理解を深め、体験への満足度を高めるとともに、地域の人々との友好を深めていくこと。
- ② 日本遺産により地域のブランド力を高め、過疎化や少子高齢化の進行により失われつつある住民の地域に対する誇りと愛着・活力を醸成することで、住民主体の自発的な取組を促し、島の賑わいを創出すること。

構成文化財概要（来訪や消費のコアとなる中心的一部抜粋）

■ 金田城跡（かねだじょうあと）【対馬市】

唐や新羅の日本侵攻を防ぐ目的で築かれた朝鮮式山城跡。



■ 原の辻遺跡（はらのつじいせき）【杵岐市】

弥生時代の環濠集落跡（海外交易拠点）で、『魏志倭人伝』に記された一支国の王都。



■ 三井楽（みみらくのしま）【五島市】

遣唐使船の最終寄港地である、五島市三井楽町の海岸域及び海域。



日本遺産ストーリーを活用した、 観光コンテンツ・観光商材の造成 による認知促進と経済効果の創 出

事例サマリー

- 日本遺産の認定を契機に、既存のシーカヤックの周遊ルートを見直し、構成文化財間を結び、周遊できるルートに変更したことで、観光客がツアーを通じて日本遺産ストーリーを体感できる仕組みに整備された。
- 日本遺産ストーリーにまつわる往時の古代米を活用したメニュー開発を進め、観光消費拡大による地域の活性化を目指すと共に、食を通じた日本遺産ストーリーが体感できる仕組みが整備された。

取り組みの内容

<日本遺産ストーリーを活用したシーカヤックツアーの造成>

- 志岐内海湾振興会が、既存のシーカヤックツアーを日本遺産に特化したツアー内容に変更し、日本遺産ストーリーが体感できるツアーへと進化させた。
- 青嶋公園を発着し、国特別史跡の「原の辻遺跡」へ通じる海の玄関口である志岐内海湾（日本遺産）の周遊や弥生人が原の辻遺跡（日本遺産）に向かった古代航路をカヤックに乗って体感できる。
- 観光客受入整備のため、内閣府「特定有人国境離島 地域社会維持推進交付金 滞在型観光促進事業」を活用。

<日本遺産ストーリーにまつわる観光商品の造成>

- 構成文化財である原の辻遺跡で収穫した古代米（黒米）や日本遺産内海湾の長寿牡蠣等の様々な食材とコラボした商品開発が進められた。
- 現在は、「古代米御膳」や「古代米弁当」、日本遺産内海湾長寿牡蠣とコラボした一支国牡蠣バーガーが商品開発され、地域の施設で販売されている。
- 古代米の栽培を行う「特定非営利活動法人 一支国研究会」が、収穫した古代米を活用した商品開発・販売を自主事業として実施している。

取り組みの経緯・着眼点

<日本遺産ストーリーを活用したシーカヤックツアーの造成>

- 日本遺産第1号認定を契機に、地域の歴史・文化をより伝えたいといった思い・誇りが地域に生まれた。
- そこで、志岐内海湾振興会は、観光客に日本遺産ストーリーを伝えられて、地域の歴史・文化を広く認知・理解してもらうために、既存のシーカヤックツアーを日本遺産に特化したツアー内容へと変更するに至った。

<日本遺産ストーリーにまつわる消費につながるやすい観光商品の造成>

- 地域観光による経済効果を生むために、消費へつながりやすい食に関連した観光商品の造成が進められ、日本遺産ストーリーに関連する古代米等を活用したメニューの開発・販売を行うに至った。

当該地域によるPRポイント

- 地域における既存の観光コンテンツを日本遺産のストーリーに派生させることで、日本遺産を活用した観光コンテンツの多様化が図られるのではないか。
- 地域の観光消費につながるやすい食に着目して、日本遺産ストーリーを活用した観光商品を造成することで、経済効果の創出が図られるのではないか。

取り組みの工夫点

<日本遺産ストーリーにまつわる観光商品の造成>

- 一支国研究会が指定管理するガイドス施設を担当していた志岐市の職員が観光領域の経験・知見を有していたこともあり、認定当初から一支国研究会と日本遺産ストーリーを活用した事業推進の協議を精力的に行うことで、多様な商品開発・販売を実現することができた。

<古代米の収穫を通じた普及啓発の実施>

- 一支国研究会では、古代米の収穫イベント「刈り入れ祭」を開催しており、市民に古代の服を身につけて、石包丁等による収穫を体験してもらうことで、往時の体感を通じた日本遺産ストーリーの認知促進を図っている。



「一支国シーカヤック体験



原の辻遺跡での古代米の収穫



「古代米カレーライス」

「古代米御膳」&
「古代米弁当」日本遺産内海湾長寿牡蠣と
コラボした一支国牡蠣バーガー古代米と酒の技術がコラボした
古代米を使用した甘酒開発

観光来訪者への日本遺産ストーリー認知に向けた地域一帯での仕組み整備と、広い視野・深い理解を有すガイド育成の追及

事例サマリー

- 多数の観光客が確実に立ち寄る地域の玄関口に日本遺産ストーリーの説明板設置による認知促進・周遊促進と共に、玄関口を日々利用する地域住民へ普及啓発を図った。
- 自地域のみならず、他地域や他国等といった関連プレイヤーの動向も加味した日本遺産の位置づけを語る広い視野・深い理解を持ったガイドの育成を追及している。
- 上記により、観光来訪者へ日本遺産ストーリーの認知促進を確実に進めると共に、日本遺産ストーリーへの興味関心・深い理解を促している。

取り組みの内容

<玄関口での説明板設置>

- 交通のタッチポイントとなる空港（長崎空港、対馬空港）や港（吉岐郷ノ浦港、対馬厳原港、新上五島町有川港）等において、説明板を設置する。
- 新上五島町では、地域で最も乗降客数が多い有川港を選び、日本遺産ストーリーの説明板を設置する。
- 対馬市では、対馬空港や対馬厳原港にて、日本遺産ストーリーの説明板の設置を行い、日本遺産ストーリーを解説するパンフレットも設置する。
- 吉岐市では、吉岐郷ノ浦港における日本遺産ストーリーの説明板では、全体ストーリーの他に、構成文化財の解説や所在地を示す地図等も掲示する。
- 五島市では、日本遺産ストーリーの説明板における外国語表記に対応する。
- 説明板の整備のため、国土交通省「離島活性化交付金」を活用。

<ガイド育成>

- 吉岐市のガイドは、個別の構成文化財の説明とともに、日本遺産ストーリーが他国・他地域との関係性で成り立っているストーリーを踏まえて、他国の内情とも対比させた深みのある解説が行われている。
- 五島市では、五島市おもてなしガイド連絡協議会を組織して、計3回の研修・ガイド試験を通じて、正式なガイドとして認定されている。
- ガイド通訳育成のため、文化庁平成30年度「文化遺産総合活用事業」を活用。

取り組みの経緯・着眼点

<玄関口での説明板設置>

- 玄関口を利用する観光来訪者のみならず、日々の生活の中で玄関口を利用する地域住民に対しても、日本遺産ストーリーの認知促進を図るため、各構成地域の玄関口での日本遺産ストーリーの説明板設置を行うに至った。

当該地域によるPRポイント

- 地域の玄関口において、日本遺産ストーリーを伝える仕組みを整備することで、観光来訪者への認知促進のみならず、地域住民に向けた普及啓発としても効果が図られるのではないかと。
- 自地域のみならず、日本遺産ストーリーに関連する周辺国・周辺環境との連動性まで踏まえて、日本遺産ストーリーの解説ができるガイドの育成が重要ではないかと。

取り組みの工夫点

<説明板による周遊促進の取組>

- 説明板にて、日本遺産の全体ストーリーに加え、個別の構成文化財の解説を付属させることで、観光来訪者への認知促進のみならず、構成文化財への周遊促進を図っている。
- また、吉岐市内の一支国博物館では、日本遺産の全体ストーリーや構成文化財に関する説明板・資料の展示と併せて、吉岐・対馬・五島それぞれの説明も並列して紹介することで、観光来訪者への島を跨ぐ周遊促進を図っている。

<ガイド育成>

- ガイドに対して、テキストや講義を通じた継続的なスキルアップを図ることで、日本遺産のストーリーの本質的価値である緊張と融和の歴史を持つ「国境の島」が伝えられる解説へと磨きをかけている。
- 例えば、自地域の歴史を学ぶだけではなく、同時代の相手国の内情と連動させて、緊張と融和の状況を対で説明できるようにガイドの教育がなされており、広い視野・深い理解の基で、日本遺産ストーリーの解説がなされている。



長崎空港



対馬空港



吉岐郷ノ浦港



対馬厳原港



新上五島町有川港



五島 外国語表記対応